

2. 「平成26年技術講習会」開催報告

平成26年11月12日(水)吉野石膏(株)大会議室にて、平成26年技術講習会を開催致しました。今回も多数の参加頂きましてありがとうございます。

今年は「実務者のための集合住宅の遮音・床衝撃音対策」について実務経験豊富な講師の方々に講義・解説をいただきました。

〈目的〉

集合住宅に対する音環境性能の目標レベルは、消費者要求性能の上昇、日本住宅性能表示制度等の基準・規格の浸透などによりシビアになる状況にあります。また、音環境に不利な立地条件下に計画される物件が多くなる傾向にあること、高気密化や自由な平面計画が行われるようになってきたことなどが音環境に影響を与えていることも認められます。このような実情に対応するためには、企画・設計段階から施工まで、実際面でのデータに基づいた検討が必要となります。

本講習会では、集合住宅における高品質な音環境達成のための最新情報を提供し、実務者が遮音対策を行う上で役立つ内容とすることを目的としています。

〈テーマと講師(敬称略)〉

1. 総論－集合住宅における音環境

講師：井上勝夫(日本大学理工学部)

- 1.1 遮音設計目標値の設定
- 1.2 集合住宅の遮音計画上の留意事項



2. 外周壁・界壁の遮音対策

講師：村石喜一(音環境研究所)

- 2.1 外周壁の遮音対策
- 2.2 界壁の遮音対策



3. 床仕上げ構造の床衝撃音低減性能

講師：田中学(日本建築総合試験所)

- 3.1 床衝撃音低減量
- 3.2 各種床仕上材の性能



4. 現場における床衝撃音遮断性能の実際と裁判事例

講師：中澤真司(鉄建建設)

- 4.1 スラブ素面時の床衝撃音遮断性能
- 4.2 床仕上げ構造の施工上の留意点など
- 4.3 床衝撃音関連裁判事例の概要



〈各講師の講義内容より〉

井上教授からは、まず、遮音設計目標値の設定として利用される評価基準作成における各機関の相互の関連性と各々の役割をご説明頂きました。その中でも特に、評価基準は居住者のために作成するものであることから評価尺度・評価基準の規格化における設定根拠は、居住者の反応に基づいていることが基本であり、建築物内の評価を対象とする場合はこの検証を行うことが重要であることを、現在の床衝撃音遮断性能L値と生活実感表現の対応の統計調査結果等の説明とともにご教授をいただきました。

村石氏からは、空気伝搬音の対策を中心とした建物外からの騒音に対する主に外周壁の遮音対策と建物内からの騒音に対する主に界壁の遮音対策について講義して頂きました。外部騒音の対策に必要な環境騒音の測定事例の中では、超高層の建設予定地での気球を使用した測定方法や高さごとにおける測定結果等は受講者からの質問内容からも関心が高かったと感じられました。内部騒音の対策における講義では、界壁の構造別遮音性能や、現場施工における注意点や遮音欠損の事例などを説明頂きました。

2. 「平成26年技術講習会」開催報告



田中氏からは、床衝撃音レベル低減量の試験方法及び評価基準の推移と、技術的背景や工法の多様化から新しい低減量等級(ΔL 等級)の導入目的・経緯などを説明頂きました。そして、その ΔL 等級の取り扱いに

おける注意事項や対応試験の方法、品確法における評価やみなし仕様等についての講義と現在の使用されている主な床仕上げ別の低減量データを示して頂くことにより、理解を深める事ができました。

中澤氏からは、音のトラブル電話相談の状況から音に関する不具合、中でも床衝撃音に関する件数が高く示されていることと、施工上、床衝撃音低減量に影響を及ぼす要因・事例の説明を頂きました。そして、集合住宅を中心とした音の問題に関して収集された裁判例の中から、床衝撃音関連の裁判事例と内容の説明を頂きました。音環境に関する紛争の未然防止という目的においてもこのような事例の調査・把握は重要であることを感じる内容でした。

今回の講習会におきましても、充実した講義内容と皆様のご参加を期待しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。